

トピックス…④

中酪新会長に

茂木 守全中会長を選任

本会議は10月7日に理事会・臨時総会を開き、宮田 勇会長の後任に茂木守全中会長を選任したほか、本会評議員8人の交代を決めた。また、11月12日に評議員会を開き、平成19年度の事業報告などについて意見交換した。

● 酪農乳業の協力関係が勉強になった・ 宮田前会長

中央酪農会議は10月7日、東京・大手町のJAビルで理事会・臨時総会を開き、全中会長を8月に退任した宮田勇会長の後任に、茂木守(もてき・まもる)全中会長を新任した。

Profile

茂木 守 (もてきまもる)
昭和34年長野県立北佐久農業高校卒。平成15年5月～17年1月JA佐久浅間代表理事組合長、17年1月から同会長、16年6月からJA長野中央会・各連合会・県本部会長、17年8月～20年7月全中副会長、20年8月から同会長。68歳。



一方、退任あいさつした宮田前会長は、「02年の会長就任から6年間、皆さんのご指導、ご協力を頂いて会長職を務めることができ、心から感謝を申し上げます。就任時を振り返ると、各県単位だった指定団体がブロック化(広域化)された後であり、広域指定団体のより効率的な運営や仕事の進め方について苦労が多かった時代だった。理事会でも、組織的、事業的にもどうしたら円滑で効率的に進められるかが議論となった。また、当時は理事会のほかに、乳業メーカーと共通の課題を討議する会合があり、乳業メーカーからいろいろな話を聞いた。お互い立場は違えども、酪農と乳業は協力しあう関係として大変勉強になった。今後は茂木守新会長を中心に中酪、関係団体がますます発展するよう祈念している」と述べた。

● 評議員8人の交代を了承

また、7日の理事会・臨時総会では、広域指定団体設立前の旧指定団体会長などがメンバーとなっている評

議員41人のうち、指定団体から推薦のあった8人の交代を決めた。交代した新たな評議員は次の通り。

佐藤雅仁(ホクレン生乳受託販売委員会特別委員会委員長、北海道)、門脇 功(東北生乳販連理事、岩手)、菊池一郎(関東生乳販連理事、栃木)、金剛寺誠(北陸酪連理事、富山)、小川和夫(東海酪連理事、長野)、杉村克一(近畿生乳販連理事、滋賀)、柏木章宏(同理事、和歌山)、森 嘉明(九州生乳販連理事、佐賀)。

● 評議員会、20年度事業の課題を意見交換

中酪は11月12日から13日まで、神奈川県箱根町のホテルおかだで評議員会を開催し、20年度の主要な事業と進捗状況について、意見交換した。

主な意見としては、①生乳の安全・安心に係るリスク負担を軽減するための生産者基金の創設、②安全・安心のチェックシートの記録・記帳の徹底と、これでは対応できないリスクを回避するための検査体制の充実、③乳価交渉における交渉当事者等の役割の明確化と指導力強化、④指定団体の再広域化が必要だ、⑤生産者による価格形成力・指定団体機能強化を図る上での中酪の指導力強化、⑥生産者組織及び現場の酪農家への適切な情報発信とそのための関係団体の連携、⑦国産乳製品の需給調整における役割を再評価すべきだ、⑧乳価値上げ後のリスク回避のための当面する緊急的な取り組み(牛乳消費拡大、飲用向け需要が減少すると生乳流通や取引が混乱するのでそのための地域間調整、乳代を払えない乳業が出てくる可能性があるためそのためのリスク管理等)―が出された。

これらの意見について村上副会長は、「WTO情勢など国際化の進展で厳しい状況になるとみられるが、評議員会の議論を踏まえ、理事会などで今後早急に議論していく。各評議員はそれぞれの地域で生産者に理解してもらえるよう取り組んでもらいたい」と総括した。